

## 日本民営鉄道協会 「私とみんてつ」小学生新聞コンクール 第9回表彰式を開催

日本民営鉄道協会では、新聞づくりを通じ、子どもたちに鉄道に対する関心と理解を深めてもらうことを目的に、平成19年より小学生全学年を対象に『私とみんてつ』小学生新聞コンクールを開催している。

今年度の第9回小学生新聞コンクールには、全国564校から6184作品(6262人)の応募があり、厳正な審査を経て、個人賞部門・学校賞部門の受賞作品を決定。1月9日(土)に表彰式が行われた。来年度は第10回目を迎える。

### ●授業や自由研究など参加者が広がる新聞コンクール

『私とみんてつ』小学生新聞コンクールは、全国小学校社会科研究協議会の後援でスタートし、24年開催の第6回からは同協議会とともに文部科学省・国土交通省の後援を得て、毎年開催している。

小学生新聞コンクールの募集対象は小学生全学年。新聞づくりがまだ難しい小学1年生、2年生については「絵日記風の新聞」も受け付けており、総合学習や国語の授業のほか、夏休みの自由研究や宿題に活用する学校が年々増えている。原則として学校を

通じての応募となっているが、ポスターなどで新聞コンクールの開催を知った児童が自主的に参加するケースも少なくない。毎年参加して最終学年の6年生で見事、最優秀作品賞を受賞した児童や、きょうだいやいとこが順番に参加し、揃って入賞を果たしたなど、新聞コンクールの広がりを感じさせるほほえましいエピソードも生まれている。

### ●最優秀作品賞1点は駅ポスターに

全応募作品の中から第一次・第二次審査を経て、審査委員による最終審査で選ばれた個人賞部門の受賞作品は36作品。最優秀作品賞(文部科学大臣賞)は、山梨県富士河口湖町立船津小学校の森 響さんの作品「富士山に一番近い鉄道 富士急子ども新聞 涙の最終回特別記念号 テーマ『これからの富士急行線』」が受賞した。また、学校部門では18校が入賞し、最優秀学校賞(国土交通大臣賞)は、東京都葛飾区立水元小学校に贈られた。

日本民営鉄道協会では、最優秀作品賞の受賞作品と最優秀学校賞受賞校を紹介するポスターを作成し、3月末まで協会に加盟する全国71社の駅に掲出する。



1 第9回『私とみんてつ』小学生新聞コンクール 受賞者の皆さんと主催者・後援者の役員 2 最優秀作品賞を受賞した森 響さん 3 最優秀学校賞を受賞した水元小学校 4 日本民営鉄道協会に加盟する全国71社約3000の駅に掲出されるポスター



■個人賞部門 最優秀作品賞(文部科学大臣賞)1作品、優秀作品賞7作品、奨励賞6作品、佳作22作品

■学校賞部門 最優秀学校賞(国土交通大臣賞)1校、優秀学校賞3校、奨励賞6校、若草奨励賞7校、みんてつ学校賞1校

◎個人賞部門の最優秀作品賞、優秀作品賞、奨励賞、佳作を受賞した作品は、日本民営鉄道協会ホームページ内サイト『みんてつキッズ』で紹介しています。  
<http://kids.mintetsu.or.jp>

# えちぜん鉄道・福井鉄道 相互乗り入れを開始 鷺塚針原駅—田原町駅—越前武生駅間

平成 28 年 3 月 27 日 (日)、福井県のえちぜん鉄道三国芦原線と福井鉄道福武線の相互直通運転が開始された。事業者の異なる鉄道と路面電車が互いに乗り入れるのは全国初のケースとなる。

## ●相互乗り入れで移動時間を大幅に短縮

相互乗り入れ区間は、えちぜん鉄道の鷺塚針原(福井市)－福井鉄道の越前武生(越前市)間で、結節点の田原町駅(福井市)で相互に乗り入れる。これにより福井、鯖江、越前の三市にまたがる約 27km 区間の交通利便性が大きく向上した。

相互乗り入れの電車は、「急行」で運行。田原町で乗り換える必要がなくなり、所要時間は鷺塚針原－越前武生間で約 60 分と従来と比較して 20 分程短縮された。午前 6 時～午後 7 時の時間帯に運行し、通勤通学客が多い午前 6～9 時はえちぜん鉄道の福大前西福井(福井市)－越前武生間を往復、午前 9 時～午後 7 時は鷺塚針原－越前武生間を往復する。

## ●次世代型低床車両「FUKURAM」[Ki-bō] が運行

車両は、福井鉄道の次世代型低床車両「FUKURAM (フク

ラム)」とえちぜん鉄道が新たに導入した次世代型低床車両「Ki-bō (キーボ)」を中心に運行している。

「FUKURAM」は、平成 25 年に営業運転を開始した日本初の 3 車体 3 台車の連接式(全長 27 m)の低床電車。1 編成あたりの定員は 155 人(座席 53 人)で、鉄道車両と同等の輸送力を誇る。車体カラーは、鮮やかなオレンジと「福井の海・空」をイメージしたという爽やかなブルーがベース。

これに対し、えちぜん鉄道が初めて導入した次世代型低床車両「Ki-bō」は、丸みを帯びた黄色い車体で、「福井鉄道の車両『フクラム』と併せ、相互乗り入れで『希望が膨らむ』ように」と、愛称「キーボ」が命名された。「Ki-bō」は 2 連接車で、座席は 32 人。車両幅は「FUKURAM」と同じ 2.65 m で、幅にゆとりを持たせ、100 人が乗車できる。2 編成導入した。

相互乗り入れをめぐるっては、平成 27 年春の運行開始を目指していたが安全面を最重視し、この春、満を持しての運行開始となった。併せて、同日付で、福井鉄道福武線の市役所前－福井駅前間が JR 福井駅西口広場へ 143 m 延伸して福井駅に乗り入れ、利便性が一気に向上した。



1



3



2



4

1 ブルーをベースとした「FUKURAM」2 オレンジをベースとした「FUKURAM」3 相互乗り入れ区間で運行する「Ki-bō」4 相互直通運転の開始を告知するえちぜん鉄道のポスター 5 「Ki-bō」のロゴマーク



5



えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れ区間